ユニバーサル社会の「住環境」を理解するための基礎知識

福祉住環境コーディネーター検定試験®

東京商工会議所　検定事業部

1. 福祉住環境コーディネーター検定試験とは

福祉住環境コーディネーター検定試験は，高齢者や障害のある方にも住みやすい住環境を整えるために必要な，福祉・建築・医療の幅広い知識を身につけることができる検定試験です。

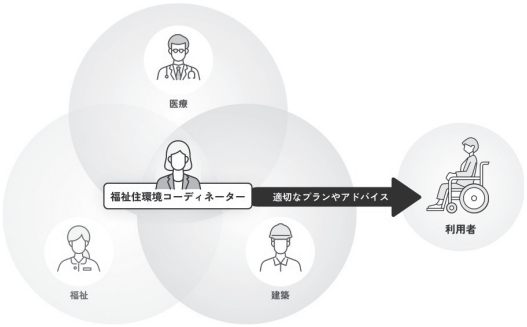
急速に高齢化が進み「人生 100 年時代」と言われる日本において，長期化する「老後」の生活をいかに充実したものにしていくか。福祉住環境の整備はこの課題を解決するための重要な要素です。

例えば，病気や，身体の障害を抱えても，住み慣れた家に少し手を加えたり，必要な用具を整えたりすることで，生活の質を改善していくことができます。このように，誰もが自分らしく安心して暮らせる住環境を整備するためのさまざまな知識を学ぶことができるのが「福祉住環境コーディネーター検定試験」（以下，本検定試験）です。1〜3 級の設定があり，特に 3 級は高校生・高専生を含む多くの学生が受験しています。

◆ 3 級合格者　工業高校 1 年生

『学校の先生の勧めで受験しました。私は工業高校の建築科に通っているため，学んだ知識を活かして設計の授業で，風呂や便所，アプローチまでの設計に工夫をすることができました。将来建築士を目指しているので，この検定試験で学んだ知識が十分に発揮できることを期待しています。』

福祉住環境の整備には，ソーシャルワーカー，介護支援専門員（ケアマネージャー），建築関係者，理学療法士，作業療法士，言語聴覚士など，多くの専門職が関わっています。福祉住環境コーディネーターは，①生活者の視点に立って住環境ニーズを発見し，②改善策を提案し，③様々な専門職と連携して包括的なアプローチにより問題を解決するに至るまでの，一連の流れをコーディネートする重要な役割を果たします。さらに，④目の前の具体的な住環境整備の課題に対して，速やかに，かつ的確に対応する実践力も求められます。



2. 分野横断的な知識を身に付ける

前述のとおり，福祉住環境コーディネーターは，高齢者や障害をもつ方，そしてその家族の生活全体を見据え，住環境の側面からさまざまな支援を行い，各分野の専門職との連携・調整を図りながら業務を遂行していく人材です。その役割を達成するためには，生活を支えるさまざまな福祉制度の概要はもちろんのこと，連携する各職種の立場や専門性を理解することが欠かせません。本検定試験では，住環境の視点から，福祉・建築・医療の各分野について横断的に学習することに独自性があります。

本検定試験を通じて得る体系的な知識は，地域包括支援センターなどで働く人のように，日頃から高齢者・障害をもつ方やその家族から相談を受ける立場・職業の人だけに必要なものではありません。

例えば，介護施設職員など福祉・介護の現場でケアスタッフとして活躍する人や，ハウスメーカーやリフォーム，住宅や施設の設計など，建築分野の業界で働く人にとって，顧客（あるいはサービス利用者とその家族）の潜在的なニーズを汲み取り，専門分野の枠に留まらない付加価値の高い提案やサービスを提供するために，本検定試験で学習する総合的な知識の習得は有益です。

表１　各級の基準

各級	各級の基準
３級	福祉と住環境の関連分野の基礎的な知識についての理解度を確認します。 ●超高齢社会が到来する中で，生活者として知っておくべき福祉一般の基本的知識を理解している。 ●子供から高齢者にわたる全世代を対象に，生活者の視点から地域コミュニティ・まちづくりを含んだ「福祉住環境整備の基礎知識」を理解している。
２級	３級レベルの知識に加え，福祉と住環境等の知識を実務に活かすために，幅広く確実な知識を身につけていることを確認します。また，各専門職と連携して具体的な解決策を提案できる能力を求めます。 ●介護，医療，福祉，建築，福祉用具に関する専門の知識を身につけ，それらを適用できるまで深く理解している。 ●福祉住環境に関する様々な問題点を抽出でき，クライアントのニーズ，経済的状況，福祉制度，住宅環境，福祉用具等を総合的に勘案し，各専門職と連携して最適な解決策を提案できる知識・技能を有している。
１級	２級で得た知識をもとに，新築や住宅改修の具体的なプランニングができ，さらに安全で快適なまちづくりへの参画など幅広い活動ができる能力を求めます。 ●個々の住まいにとどまらず日常生活圏全般に，また社会福祉施設（ケアハウスやグループホームなどの住関連施設）までも視野に入れた住環境整備に関わる知識・技能を有している。 ●地域社会におけるコーディネーターとしての能力，さらに福祉のまちづくりなどにも積極的に助言できるような知識と調整力を有している。

※上記情報は 2026 年 9 月時点のものです。

また，世界でも類を見ない速さで少子超高齢社会に突入しているわが国においては，今後あらゆる業界・産業が高齢者を意識したものに大きくシフトしていくことが予想されます。さらに，高齢者だけでなく，さまざまな身体障害をもつ人，精神障害や知的障害のある人，子育て中の家族や子ども，外国人など，ますます多様化する社会構成に対応する，「ユニバーサルデザイン」への移行が一層進められています。このような社会的背景から，直接的に福祉や介護に携わらない職業の人にとっても，本検定試験で学習する横断的な知識は，さまざまな分野の商品開発，店舗や職場内の動線確保など，多くのビジネスシーンで役立つものといえます。同時に，一人の生活者としても身近な問題として欠かすことのできない，重要な視点を得ることにつながります。

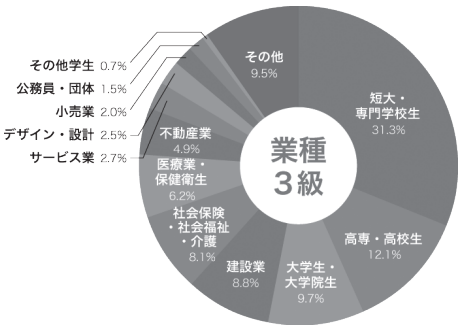


図１　３級の受験者内訳

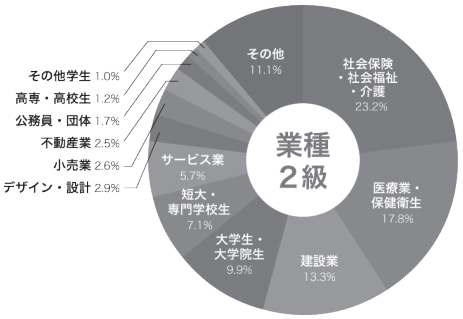


図２　２級の受験者内訳

3. 各級の基準・受験者

本検定試験には 1〜3 級があり，いずれの級においても受験資格はなく，だれでも受験することができます。各級の基準は**表 1** のとおりです。

2026 年 3 月時点で 1〜3 級の累計受験者数は 178 万人を超えており，2025 年度には 3 級で 5,079 名，2 級で約 14,584 名が受験しました。

福祉住環境に関する基礎的な知識を学習する 3 級では特に学生の受験者が多く，半数以上を占めています。福祉・介護系，医療系の専門学校，建築分野の学部をもつ大学を中心に，教育機関の学習でも利用されているほか，関連する業界企業への就職を目指す学生の受験も多くみられます（**図 1**，**図 2**）。

4. 利便性の高いネット試験

本検定試験を含む東京商工会議所主催の検定試験は，コロナ禍を機に，2021 年度より従来のマークシート方式での試験からネット試験へと移行しました。

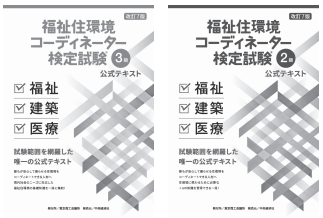
受験者が自宅等で自身のパソコン・通信環境を使

用して受験する IBT 方式（Internet Based Test）と，全国のテストセンターで受験する CBT 方式（Computer Based Test）のいずれかを選択でき，利便性が大きく向上しています。

2・3 級の試験は年 2 回，夏と秋に設定された約 3 週間の試験期間内（土日祝を含む）で都合の良い日時を選んで受験します。所定の要件を満たせば，学校の教室等に集まって一斉に受験する「自校開催」も可能で，授業時間中にクラス全員で受験する場合等にこの実施方法が利用されています。

5. 学習について

各級の試験問題は公式テキストから出題されます。テキストでは，学習で得られた知識が福祉や建築，まちづくりの現場でどのように活用されるのかを理解できるよう，実践事例も多数掲載しています。



また，学習をサポートする副教材として，別途「練習問題」（2・3 級のみ）を販売しており，公式テキストで読んだ知識の定着を確認するなどの目的で利用されています。（練習問題は東京商工会議所検定センター公式 Web サイト上の申請フォームからのみ購入できます。書店での販売はありません。）

2025 年度の合格者を対象に実施したアンケートでは，3 級に合格するまでの学習時間は 1 日あたり 2 時間以下，学習期間は 2 か月以内との回答が全体の約半数を占める結果となりました。授業や課外活動等で多忙な学生も，学生生活と両立しながら無理なく知識習得に取り組めます。

本検定試験を団体受験[注1]した学校の担当者からは「明確な到達目標になり，生徒の学習意欲が高まった」「学習の習慣づけができた」「クラス全員で合格に向けて取り組み，一体感ができた」と，検定試験を通じた知識習得にとどまらず，生活面でのメリットを感じているとの声も寄せられています。

表 2　2025 年度の受験者を対象に実施したアンケート（任意回答。回答数 437 件）

受験した動機	%
自己啓発のため	49.6%
業務上必要な知識だから	14.3%
勤務先で必須または推奨されているから	12.5%
就職・転職活動で履歴書に記載したいから	10.7%
学校から薦められたから	8.8%
その他	4.1%

6. 受験の動機

すでに示したとおり，本検定試験は，3 級で学生を中心とした初学者に，2 級では実際に学習した知識を仕事で活用する介護・医療・建築業界で働く社会人や専門職に多く受験されています。

2 級が実務者に受験されている動機のひとつに，本検定試験 2 級以上の合格者には，介護保険制度を利用した住宅改修（上限 20 万円の補助金が支給される）の際に提出が必要な「理由書」の作成が認められていること[注2]が挙げられます。

こうした実務上の必要性や，業務の幅を広げキャリアアップを目指すなど，仕事や勤務先に関わる動機の他にも，受験者へのアンケートでは「就職・転職活動で履歴書に記載したい」といった理由も回答されました（**表 2**）。

卒業後に関連する業界企業への就職を希望する学生や，転職希望者にとって，明確に「合否」がでる検定試験の特徴から，学習の成果（知識を有していること）を客観的に示すことができる手段として活用されています。

7. 合格者の声

さまざまな理由から年間約 2 万人が受験する本検定試験ですが，実際に受験者が検定試験を通じて学んだ知識が役に立ったのはどのような場面でしょうか。ここでは合格者から寄せられた声の一部をご紹介します。

注 1　3 名以上で選択可能な申込方法。団体担当者が受験料の支払いを一括して行えるだけでなく，成績を管理できる等のメリットがあり，企業や学校で利用されている。

注 2　一部自治体では要件が異なる場合があります。

福祉住環境コーディネーター検定試験（2・3級）試験概要	
開催時期	年２回開催 夏期（6〜7 月）秋期（10 月〜11 月）
試験方式	IBT 方式または CBT 方式から選択
試験時間	90 分
出題方式	多岐選択式
出題範囲	各級の公式テキスト（最新版）に準じて出題
合格基準	100 点満点とし，70 点以上をもって合格
受験資格	なし
受験料（税込）	２級：7,700 円　３級：5,500 円 ※ CBT 方式を選択した場合は， 施設利用料 2,200 円が別途発生

※上記情報は 2026 年 9 月時点のものです。

◆ 10 代 大学 2 年生（2・3 級合格）

『大学で福祉工学の授業を受けたことがきっかけで，居住支援や福祉住環境に興味を持ちました。検定試験の学習を通じて福祉の知識を生活場面に結びつけて考える力が身につくため，社会福祉を学んでいる学生におすすめです。また，社会福祉士の試験の範囲に該当する知識も含まれるため，国家試験対策にも役立ちます。』

◆ 20 代 医療職（2 級合格）

『医療職として働いており，さらなるスキルアップを目指して受験しました。入院患者・通所リハ利用者などの自宅や施設へ家屋訪問・調査へ行くことも多く，介護支援専門員と知識を共有でき，連携を取りやすくなりました。』

◆ 30 代 製造業（2 級合格）

『ユニットバスルームメーカーに勤務しており，バリアフリーバスルームの提案に役立つと思い受験。勉強を通して多方面から福祉について知っておく必要性を改めて実感しました。仕事だけでなく，家族が福祉の助けを必要とするときに，予備知識があれば多角的なアドバイスを自らすることができるので，日常生活に必要不可欠な知識でもあり，これからの時代必要になるものだと思いました。』

◆ 40 代 福祉用具専門相談員（2 級合格）

『福祉用具の利用者やその家族の方に様々な提案をするために学習する必要があると感じたため受験しました。検定試験の勉強で得た知識はほぼ仕事に活かせるもので，受験し合格したことが自信につながりました。』

2・3 級合格者のうち，約 95％が「検定試験を通じて得られた知識に満足している」と回答しており，検定試験に挑戦した受験者の多くは，学習の手ごたえを実生活の中で感じることができているようです。

今回ご紹介した「合格者の声」のほか，本検定試験に合格し，習得した知識を活かして働く方や，検定試験を推奨する企業へのインタビューを Web サイト（https://kentei.tokyo-cci.or.jp/fukushi/）にて多数掲載しております。本検定試験にご興味をもっていただけましたら，是非ご覧ください。

8. 東京商工会議所の検定試験（主催者紹介）

福祉住環境コーディネーター検定試験は，東京商工会議所が企画，主催する検定試験です。東京商工会議所は，日本の資本主義の父と呼ばれる渋沢栄一が初代会頭となって設立された地域経済団体で，「民の繁栄が，国の繁栄につながる」という渋沢の精神を現代に引き継ぎ，商工業の発展，日本の発展のため経営支援・政策要望・地域振興の 3 つを柱として活動しています。

東京商工会議所の検定試験は，「産業人材の育成」をミッションとし，各時代において社会に求められる知見を備えた人材の育成に取り組んできました。累計受験者数は 430 万人を超えており（2026 年 3 月現在），現在では環境社会検定試験（eco 検定），ビジネス実務法務検定試験，ビジネスマネジャー検定試験，カラーコーディネーター検定試験，そして福祉住環境コーディネーター検定試験の 5 つの検定試験を実施しています。

＜お問合せ＞

公式テキストの献本をご希望の方は
東京商工会議所までお気軽にお問い合わせください

東京商工会議所　検定事業部
https://kentei.tokyo-cci.or.jp/inquiry.html

「福祉住環境コーディネーター検定試験」は東京商工会議所の登録商標です。